

令和6年7月4日

防火防災避難訓練 講評

本日の避難訓練は、皆さんいかがだったでしょうか。

学校では、地震や火事を想定した避難訓練を年2回実施することが義務づけられていますが、原子力発電所が30km圏内にある学校では原子力災害を想定した避難も計画されており、本校近辺では受入が想定されています。

さて、皆さんも記憶に新しいことと思いますが、今年、元日の16時10分、石川県の能登地方を中心に発生した地震は、気象庁の発表によると、震度6強、マグニチュード7.6で、避難所にて生活を余儀なくされた方は、約14,000人となりました。

先日7/1のニュースでは、半年が経った能登地震の被害関連死も52人を数え、今もなお、仮設住宅暮らしを余儀なくされている方が多くいると報じられていました。

鹿児島でも地震については、今から27年前の1997年に震度5強、マグニチュード6.6の県北西部地震があり、地元の高校では、校舎の一階部分が半分に押しつぶされる被害がありました。県内には、未確認の断層によるM6～7の地震が、どこでも起こりうると言われていています。

また、先週のように一日あたりの総雨量が多く、土に水分を多く含んだ状態で地震が重なると、大規模の土石流が発生し、民家を一気に飲み込むような被害が想定されます。

本日も12時12分頃、千葉県で震度4の地震が観測されたように、自然災害は、昼夜を問わず、いつ起こるか分かりません。日本は4つのプレートの上であり、南海トラフ地震も想定されています。いつ災害が起こっても、備えがあれば、行き当たりばったりではなく、臨機応変に対応をしやすいかと思います。

最後になりますが、本日の訓練をきっかけに、自分自身で身を守ることなど、地震災害への備えと、避難・集合場所の確認や連絡手段など、家族間でも話し合う機会にしていればと思います。

以上、地震・災害への対応について、皆さんと確認・準備のお話をもって、私からの講評といたします。